

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 3257 号	氏 名	福田 萌美
論文審査担当者	主査 石野 敬子 副査 藤田 健一 副査 岩井 信市		
<p>論文題名：</p> <p>Risk factors for initial antibiotic treatment failure in patients with aspiration pneumonia（誤嚥性肺炎患者における初回抗菌薬治療失敗のリスク因子の検討）</p> <p>掲載雑誌名：The Showa University Journal of Medical Sciences 掲載予定</p> <p>本研究は、誤嚥性肺炎の初回治療を決定する際の新たな判断材料を特定するために、耐性菌に関連するリスク因子以外の初回抗菌薬の治療失敗のリスク因子を検討したものである。</p> <p>2012 年 1 月から 2017 年 3 月に横浜市立みなと赤十字病院呼吸器内科で誤嚥性肺炎と診断され、SBT/ABPC または CTRX の初回抗菌薬治療が行われた 487 例の入院患者を後方視的に調査した。患者背景と抗菌薬治療失敗のリスク因子の多変量解析の結果、肺炎重症度、入院時の食事摂取、誤嚥性肺炎の入院歴、CRP が有意であった。また、服用薬剤を含めた抗菌薬治療失敗のリスク因子として、誤嚥性肺炎の入院歴、入院時の食事摂取、CRP に加え、過活動膀胱治療薬以外の排尿障害治療薬が有意であった。さらに初回抗菌薬治療を失敗した患者の入院期間および院内死亡率は、治療を失敗しなかった患者と比較して有意に高かった。以上より、誤嚥性肺炎の治療の際には、口腔内乾燥予防や全身管理の重要性を示し、さらに初回治療の失敗は患者予後に影響することを示した。</p> <p>これらの研究結果は、誤嚥性肺炎の治療を行う上で重要な知見である。また、学位論文の内容に関する質疑には的確に回答することができていた。以上より、本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p>			

(主査が記載、500 字以内)